

第4回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事録

開催日時・場所	日時：令和6年3月16日（金）10:00～12:00 場所：赤名農村環境改善センター 小会議室
議事次第	1. 開 会 2. 事務局連絡 委員の交代について 副委員長の選任について 3. 委員長挨拶 4. 議 事 (1) 基本構想（案）について 1) 基本理念と将来像、 飯南町を取り巻く課題・将来像を実現するための大切な考え方 2) 施策体系（案）について 5. 閉 会
配布資料	・第4回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事次第 ・飯南町総合振興計画等策定委員会 委員名簿 ・第3回策定委員会_議事録 ・第3回策定委員会_議事要旨 ・資料1：基本構想（案）



委員会の様子

【出席者名簿】

順不同 ◎委員長、○副委員長

番号	所属団体組織等		委員	備考
1	飯南町自治区長連絡会	会長	石橋 洋司	◎
2	飯南町社会福祉協議会	地域福祉課長	吾郷 由美子	○
3	飯南町商工会	事務局長	加津山 幸登	
4	飯南町農業委員会	会長	今岡 和登	
5	飯南町 PTA 連合会	会長	三上 昭彦	
6	山陰合同銀行	赤名出張所所長	勝部 美穂子	
7	山陰中央新報社	編集局次長	万代 剛	
8	島根県中山間地域研究センター	主任研究員	東 良太	
9	島根県情報システム推進課	CIO 補佐官	林 正知	
10	住民委員		大嶋 孝子	
11	住民委員		影山 和典	
12	住民委員		芥川 優子	
事務局	まちづくり推進課	課長	藤原 清伸	
		課長補佐	関島 哲郎	
		主幹	岡田 祐也	
		主幹	森山 雄三	
	(株)コスモブレイン (業務委託業者)	技術部 部長	大内 智弘	
		技術部計画課 計画第2課長	實重 彩香	
		技術部計画課 技術員	上代 美帆	

【議事録】

1. 開 会

2. 事務局連絡

事務局	前回の策定委員会をもって退任された徳永委員の後任として、勝部委員に新たに就任いただくこととなった。
勝部委員	3月1日付で引き継ぎ、赤名出張所で勤務している。分からない点が多く、皆様にもご迷惑をおかけすることもあると思うが、一委員として飯南町のこれからの未来について肌で感じながら一緒に意見交換ができる場を一生懸命担っていききたい。
事務局	徳永委員には副委員長に就任いただいた関係で、新しい副委員長を選任する必要があり、事務局から提案したい方がいるがそれでよろしいか。 (異議なし)
事務局	副委員長に飯南町社会福祉協議会地域福祉課長の吾郷委員にお願いしたい。 よろしければ拍手をいただきたい。 (拍手・全員一致。吾郷委員を副委員長に選任)
吾郷副委員長	年は重ねているが、大変未熟であり、毎日そのことを痛感している日々が続いており、日々物を探す時間が増えて大変困っている。だが、石橋委員長をはじめ皆様のお力を借りながらこの計画が素晴らしいものになるように少しでもお力になれたらと思う。

3. 委員長挨拶

石橋委員長	<p>今年度最後の委員会である。これまでの意見をもとに、基本構想案、施策体系案ができており、本日はこの案について意見をいただきながら、委員会として一旦のまとめをしていく段階になる。今までと異なり内容を絞った議論になるが、ご発言いただきたい。</p> <p>10年計画であり、10年後こういう町になってたらいいなということを頭の隅に置いて計画を見て、必要な視点があれば出していただきたい。</p> <p>本計画は令和7年から10年間の計画であり、令和7年は昭和100年である。昔は明治100年の記念植樹があるなど、そういう意味では記念すべき年からスタートする計画となる。</p> <p>私事だが、旧頓原中学校を卒業したのが昭和50年であり、50年前と今を考えると隔世の感がある。当時50年後がどういう町になるか考えたこともなかったが、今の中学生、高校生、小学生を含め、子ども達は町のことをよく考えてアン</p>
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>ケート等でも様々な考えを出してくれている。</p> <p>50年前と今を比べると人口は減っているが、格段に便利になった。当時は国道はまだ改良されておらず、一畑バスや国鉄バスも走っていた。中学校も旧頓原中学校、志々中学校があり、志々小学校に角井分校もあった。病院も旧頓原病院は無く診療所であり、赤来や頓原に開業医も多くいた。</p> <p>赤名へ行くことがすごく遠くへ行くようなイメージで、志々、角井等同じ頓原町内でも行ったことがない子も多くいた。50年の月日で物事の考え方は変わる。</p> <p>人が少ないとかそういうことだけでなく、どういう気持ちの持ち方をするかが大事だと考えていた。それぞれの地域、年代により色々な考えあると思うので、積極的に意見交換をして進めていきたい。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 議事

(1) 基本構想（案）について

1) 基本理念と将来像、

飯南町を取り巻く課題・将来像を実現するための大切な考え方

(事務局説明記録省略)

万代委員	<p>和暦、西暦が混在していることが気になった。石橋委員長から昭和 100 年という言葉もあり、和暦も入れた方が読む人が時代を反映しやすいと思う。</p> <p>p.6の飯南町を取り巻く課題で最初は和暦表記だが、途中から西暦表記がある。新聞を作る際にも悩むが、西暦で表記せざるを得ないところもあり、和暦から西暦に代わると、頭の中で計算しにくい。例えば和暦に西暦も併記するなど、両方に対応できると良いと思った。</p>
事務局	読みやすいよう、体裁を整える。
吾郷福委員長	<p>まちづくりの基本理念と将来像は前回委員会での意見が反映され、大変良いと思った。写真がとても良く、空を映し出す水田といった文言も素敵で、感動した。写真を取り入れて計画を作ると見やすく、行ってみたい気持ちになり、興味をそられる 1 つの良い手法だと思った。</p>
東委員	<p>p.6 将来像は事前に見ていたが、実際読んでいただいて聞くと、写真も相まってイメージしやすいものになっているとともに、先ほど説明であったが、持続可能性や余白の部分は将来像の方にはあえて入れず、基本理念に載っているというつながりも確認できた。</p> <p>p.7 以降の取り巻く課題について、これから変更するところもあるが、人口が気になっている。初めに石橋委員長が昭和 100 年だと話されたが、グラフは人口が多い時から減ってきている状態を示している。中山間地域研究センターでもよく人口の将来予測で危機感を煽るようなことをしてしまうが、人口を昭和 100 年の中で見ると、一気に増えて一気に下がっていくところになる。どうしても見せ方として一番ピークから一気に減っているように見えてしまい、数だけで判断</p>

	<p>してはいけませんが、ピーク前も含めた場合は見え方が全然違ってくる。</p> <p>最近中山間地域研究センターでも第1回国勢調査の1920年を100とした場合の変化を示した。1920年を100として現在30程度になる。1955年がピークでそこから下がっている。</p> <p>他自治体でもこの見せ方をしているが、違う見せ方ができたら面白いと思う。</p>
石橋委員長	<p>第1回策定委員会時にも言ったが、資料をどう読み取るかは非常に難しい。東委員が言われたように、この資料では減っていく一方だが、もう少し長いスパンで見ると戦後ベビーブーム時に多く子どもが生まれ、その人達が出ていったり、豪雪の影響で町を離れたりというので減ったような感じだと思う。参考資料でも良いので、もう少し長いスパンのデータがあると良い。計画自体に直接的に影響しないかもしれないが、考え方として違うスタンスで施策ができる可能性も出てくると思う。見たことがないような事実を可視化することは面白い方法だと思うので、ご検討いただきたい。</p>
三上委員	<p>p.9、10の見せ方はシンプルで分かりやすく、絵ともリンクしており良いと思う反面、p7、8は内容が混み合っている感じがする。</p> <p>先ほど資料の見せ方について言及されたが、もう少しシンプルになると読む方は分かりやすいと思う。</p>
石橋委員長	<p>計画なので、できるだけ多くの人に見ていただくことが大事だと思う。三上委員が言われたように、p9、10は目に入ってきやすいが、p7、8はじっくり読み込む必要がある。個人的には好きだが、なかなか好き好んで読む人はそれほどいないと思うので、できるだけ多くの人に飯南町の課題を理解してもらう視点で検討いただきたい。</p>
勝部委員	<p>吾郷副委員長が言われたように基本理念や将来像を読んで、すごく未来があると思った。</p> <p>生まれも育ちも雲南市吉田町だが、同じような課題がある。雲南市に吸収されて合併はしているが、末端の地域として限界集落に近いところがある中で、小さなコミュニティでできる活動を考えると、住民だけでは解決できない問題が多いと感じている。</p> <p>その中で、飯南町がこうして取り組まれることは非常に意味のあるもので、素晴らしいことだと率直な感想を持った。</p>
加津山委員	<p>よくまとめていただき、将来像は非常にわかりやすかった。</p> <p>p.9、10の人口減少社会に適応した持続可能な町を作りますということで、人口減少、その中でまちづくりが位置づけられているのでこの取組みをどうつなげていくかが大事だと思う。</p> <p>p.8の6デジタル技術活用について、決意表明ができていて良いと思ったが、誰一人取り残さないための取組を進めますとするとハードルが高いと感じた。</p>
事務局	<p>誰一人取り残さないための取組という部分について、国が策定しているデジタル田園都市国家構想総合戦略や島根県が策定しているデジタルの総合戦略も同様の書き方がしてあり、自治体がこの総合戦略を策定する場合はそのあたりを勘</p>

	<p>案するようになっていく。町としても国や県と協力しながらこういった取組を進めていく必要があり、今回書かせていただいた。</p> <p>もちろんデジタルを活用して推進していかないといけない時代になると思うが、できない方もいらっしゃるの、そういった方も支援しながら、できない人も取り残さないよう、住みよいまちづくりをしていこうという意味での取組だと理解している。</p>
加津山委員	<p>国・県がそういう考え方であれば良いが、実行する際は相当な覚悟を持って取り組む必要があり、そういう時代が来ているので町民全体で一緒に取り組んでいきたいと考えている。一人ひとりが知識を持ち、操作方法に慣れてもらう取組を具体策として方向づけしていただきたい。</p>
大嶋委員	<p>資料の出来栄が素晴らしく、文章も状況が伝わってきて、飯南町の良さが出て、これから向かって進んでいく方向性を見出せるような申し分ないものだと感じた。</p> <p>飯南町の自然が素晴らしいことが伝わってくる文章だが、一方で課題としてそれを支えている農業の衰退という現実が書かれている。この素晴らしい景観を守っておられる農業者の努力を支える取組みとしてデジタルを活用したり、子どもたちが戻ってきてやりたいと思えるような取組をさらに考えていかないと、町民に示すことはできないと思った。</p>
委員長	<p>目指すべきものを達成しようと思うと現実的にパワーも含めて厳しい現実があり、そういうものも踏まえて何をめざすか計画するスタンスとしたい。</p>
今岡委員	<p>p.7の3の中盤に本町の基盤産業である農業の就業人口の記載があるが、高齢化しており、新しい担い手確保が今問題になっている。p.9の3番に産業を活性化させ仕事を確保・創出できるまちをつくりますとあるが、飯南町の産業は何があるかという、手に職を持った人は病院や看護師等、様々な場所で活躍しているが、その他の大部分は農業、建設業に限られる。農業と一緒に建設業も若者の担い手はいないが、この10年でどう考えるかというときに説明不足なところがあるのではと感じている。</p>
石橋委員長	<p>現実では簡単に解決できない課題が多くあり、実際に基本構想や基本施策に基づいて具体的な計画が肉付けされていくが、非常に厳しい中で少しでも希望が持てるような具体性が出ると、計画としての実効性も出てくると思う。</p> <p>そうしたことも踏まえながら進めていただき、それに対して率直に意見を述べなければと思う。</p>
芥川委員	<p>会社で昨日話していたが、農業は私たちの生活の中になくてはならない、飯南町の魅力である。美味しい米や野菜が安く食べられる、すぐ手に入る、近くのおばちゃんやおじちゃんにおすそ分けされるような、こんな生活を求めても都会ではありえないという話をした。そういう生活に慣れている飯南町民の私たちにとって、やはり農業が一番急務で課題だと思う。</p> <p>以前も話したが、会社では建設業しながら二足の草鞋で農業も支えている社員が多くいる。それに限らず町内全体で考えると、考え方の3番について、先ほど</p>

	<p>言われたようにふわっとしていると感じた。農業と建設業だけでなく他にも様々な業種があり、地域を支えているのは医療、福祉や多くの分野に支えられて生きていくと日々感じている。農業は子どもたちも感じている魅力の一つであり、もう少し具体的にあっても良いと感じた。</p>
石橋委員長	<p>私自身農業に携わっており、そういう風に農業が大切、守っていかないといけない等、そういう言葉をかけてもらうことが一番元気になり、もう1年頑張ろうという気になる。物を作ってお金に変えた時、思ったほどのお金が手元に残らないことは寂しいが、それより当てにされていることは、農業に携わる方にとっては非常に嬉しい言葉だと思う。そういう温かい地域であれば、農業は少しずつながら続いていく気がしている。</p>
影山委員	<p>資料を見て全体的に分かりやすく、p.7、8に詳細が載っており、p.9、10でわかりやすく載せてあり、良い資料だと思った。</p> <p>p.7の1番の急速な人口減少について、人口が減少していることは意識的に誰もが分かっていることだと思うが、最近急速に減少している。先日も地域で若者が集まった時に人口が4,500人を切ったという話題が多く出て、自分たちの世代の中でも危機的意識が少しずつ膨れている。そうした中でも2番の中学校卒業後に町外へ転出される方が、1980年から85年の間では20歳から30歳で戻っていたものが戻らなくなったことが見受けられ、ここが大きな課題だと思う。</p> <p>計画もそうであり、飯南町に限ったことではないが、役場の人にやってもらうという意識ではなく、町民一人ひとりが自分事と考えて、日々取り組んでいかないといけない現状が今から大きく左右すると思う。</p> <p>個人的に見せ方として、グラフの中で危機感を大きく見せることも大事だと思う。p.8の4番の自分らしく暮らし続けられることへのニーズの高まりについて、住民が感じている良くないところ、魅力があるところの資料があることが良いと思った。資料を様々な人に見ていただき、持続可能なまちづくりを住民全体でしていかないといけないと改めてこの資料を見て感じた。</p> <p>p.8の4番のレーダーチャートの飯南町の偏差値について、意外だと思ったのは、事故犯罪が偏差値50に近づいている。イメージ的には事故が少なく、事件も犯罪も少ないような気だったので気になった。</p>
林委員	<p>資料を見て、これまでのアンケートや会議の場で話し合ったことが反映された資料になっており、コンパクトにまとめられている点では良いと思った。</p> <p>ただ、皆様が話されていたようにp.9、10の考え方は最初読んだ時にぼんやりしすぎており、イメージがつかみにくいと思った。これは考え方であり、大きなガイドラインであって、今後の施策でブレイクダウンされていくと思うのでそこで詳細を洗い出し、目標を掲げれば良いと思っており、現段階で特に細かい指摘はない。</p> <p>その他2点あり、まず計画のタイトルに飯南町デジタル田園都市構想総合戦略と記載があり、デジタル活用に寄った資料に見えてしまうが、何か意図があるか。農業や建設業など、飯南町の根幹の部分にも触れる資料であり、あまりデジ</p>

	<p>タルと書きすぎると特化しすぎてしまうと思った。飯南町に合うような書き方にした方が良い。</p> <p>もう一点、p.7 にグラフ等掲載されており、いつもこういう資料を見るときに思うが、最新の数値を載せる必要がある。参考で載せているデータが例えば人口は令和 2 年と令和 12 年、農業の年齢人口別就業人口も最新が令和 2 年になっているが、令和 7 年からの計画なので、令和 7 年を中心にした値にするなど、そういう観点で資料の見せ方を変えると良いと思った。</p> <p>既存の統計データの年次がこれかもしれないが、人口に関しては飯南町もまとめて出していると思われるので、それを反映した方が今の飯南町の課題が良くわかって良いと思った。</p>
事務局	<p>表題については、自治体によってある程度自由に付けるということはできるので、本町にあったような文言を今後考える。</p>
勝部委員	<p>デジタル田園都市構想総合戦略について、この資料で初めて見た言葉だったので調べたが、国の計画の名称がそのまま入っている。この資料は最終的にどういう方が見られるか。私達も目にする可能性があるが、飯南町の町民が一人ひとり老若男女年齢性別問わず見るもので、町外の方も見られる。どういう方がこの構想の冊子を見て飯南町を考えていくかというときに表紙に出てきているので私も違和感があった。国の政策に基づいて挙げている言葉であることを補足すると良いと思う。</p>
事務局	<p>策定の趣旨の項目で、今回計画策定する趣旨を記載しているが、ここに言葉の意図を町民にとって分かりやすい表現で記載する。</p>
石橋委員長	<p>表紙の表題の付け方は家で言うと表札みたいなものなので、この印象で計画のイメージが変わる可能性があるため、十分に検討いただきたい。</p> <p>また、先ほど林委員の言われたデータの部分について、p.7 では直近が令和 2 年でそれ以降のグラフがあるが、令和 7 年からの計画なので直近の数字があれば計画スタート後の検証もしやすくなると思うので、統計資料だとタイムラグがあり遅くなる可能性もあるが、その辺はできるだけ近い数字を使った方が後々役に立つと思うので検討いただきたい。</p> <p>先ほど農業の話が出ており、以前言ったことあるかもしれないが、農業には 2 面性がある。1 つは美味しいお米や野菜を提供する生産の部分であり、もう 1 つは将来像にある空を映す水田、夕日に染まる山々、雪の綿帽子は農業の公益的機能で保たれているという 2 面である。</p> <p>生産性は非常に尺度で測りやすいが、公益的な機能は非常に分かりにくい。分かりにくいのが農業をしている人も農業を見ている人も共通して恩恵を受けるのが公益的機能だと思う。お金の価値で測りにくい部分があり分からないが、私が知る限りでは 20 何年前に日本学術会議が、山も含めて公益的機能をお金に換算したことがあり、それ以降は知る限り出てきていないが、大事なものだと思いながら、価値として評価されにくい部分がある。この会で色々話をしていく中で、そういう価値は飯南町にとって大事だと思っている。今後の具体的施策に関わる</p>

	<p>が、公益的機能を一つの視点として持って考えていただきたい。</p> <p>人が少なくなり、様々な機能ができなくなるというのは飯南町に限らず日本全国どこの農村にも言え、都市部、団地も高齢化が進んでおり、同じようなことが言えると思う。10年以上前よく言われていたのは農村の空洞化で、人が次々都会へ出ていき空洞化する、田んぼを管理する人や山の管理者がいなくなり、農地が空洞化すると3番目にその村全体が疲弊して空洞化していく。この3つの空洞化が問題だと言う本がよく出ていたが、飯南町、頓原赤来も何とかついてこられたと思う。減反政策が始まった1970年、昭和40年代くらいの農村関係の本を見るとその当時から農村は大変であり、人はいなくなり担い手がおらず、今と課題はそれほど変わっていない。それから40年50年経っても続いているのは、人や農地、村、要は集落が空洞化しても、そこに住んでいる人達の心が空洞化していないので、今も続いているのではないかと思う。気持ちの持ちようで、先ほど芥川委員が言われたような言葉をいただくと、もう少し頑張ろうという気になると言ったが、そういう気持ちを持てるような地域であれば、いくら人が少なくなろうが生き生きと暮らしていけると楽観的な考え方をしている。</p> <p>この基本理念や将来像をもとにそういった施策や具体的な取組を10年間やっていただき、10年先に笑顔でいれるような計画になれば良いと思う。</p>
万代委員	<p>町外に住んでいるが、同感の気持ちがある。</p> <p>タイトルについても、総合振興計画をこの位置につけないといけなから。基本理念や基本構想をあえて表紙に持ってきて、副タイトルとして下に総合振興計画としても良いのではないかと思った。</p> <p>デジタル田園都市構想は私も気になっており、政権や状況により変わる可能性があるから、飯南町として10年持ち続けることを考えると、色々事情があるからと思うので計画の名前はどこかに必要だが、基本構想や理念が表紙にあると良いかと思った。</p> <p>デジタルについて、誰一人取り残さないというのは、私も皆さんの意見を聞いて気になっており、そこだけ軍事訓練のような感じで、何としてもスマホを使わないといけなからイメージをもつ。個人的に素人で思うイメージは、観念的で理念的だが、70代80代の人からスマホ等、意識しなくてもそういう技術に支えられて今くらいの楽な生活ができるイメージである。子どもと大人は教え合い、お年寄り自身は自身が使えなくても孫が教えてくれる。デジタル技術が世代をつないで、今のお年寄りに何としてもスマホを使ってもらうよりは、使わなくても実はデジタルに支えられているという社会のイメージがあり、そういうデジタルでの助け合いのようなことを思った。</p>
事務局	<p>強いイメージを持たれる言葉だと思っからので、飯南町にふさわしい形で今後進めていく中で浸透しやすい表現を検討させていただきたい。</p>
林委員	<p>タイトルの件は入れるよう指示されているものか。策定方針で本計画は、「基本構想」「基本計画（デジタル田園都市構想総合戦略）」「実施計画」の3つの層で構成されていると記載があり、第3次飯南町総合振興計画が本計画だと思っから。</p>

	<p>わざわざタイトルに書かないといけないのであれば併記する必要があるが、書く必要がないのであれば、あくまでもデジタル田園都市構想総合戦略は計画の一部なので、タイトルは総合振興計画とする。または万代委員の提案のように基本理念を書いたような総合振興計画にし、策定方針のところでは本計画の中にデジタル田園都市構想総合戦略のことを記載する。これについては、飯南町をデジタルで盛り上げ、活用したまちづくりというようなことを記載したら良いと思った。</p> <p>計画の内容で記載があるデジタル田園都市構想総合戦略の説明文が、デジタルに直結していないので、ここは国が策定しているデジタル田園都市構想に基づいて、飯南町に適したデジタルの戦略や施策を示します、というような内容を記載すると良いと思った。</p>
事務局	<p>個人的にはシンプルでわかりやすいタイトルにしたいと思っており、できればない方が良いと思う。ただ、最終的に必ず入れないといけないのであれば、飯南町らしく変えたい。内容に収めるだけで良いのであれば、先ほど意見いただいたように、シンプルに分かりやすいタイトルに変えたい。確認してから進めさせていただく。</p>

2) 施策体系 (案) について

(事務局説明記録省略)

影山委員	<p>例えば子育て支援であれば、1番の創造力のある未来の人づくりに紐づけていくような提案があったが、子育て支援では1番だけでなく2、3番にも関連することもあると思う。役場を悪く言うつもりはないが、縦割りとよく聞くことがあり、役場に問い合わせると、他の課でしかわからないので、別の課に聞いてというような話を前から聞くことがある。これに沿って役場の業務が進むことがあるかどうかかわからないが、様々なことを町民と行政で一体になってやっていくことを考えたときに、もう少し柔軟なやり方、考え方、紐付け方がないと良い。今までを踏襲して今後10年も継続する考え方もあるが、これまでの結果を踏まえて一度考え直すことも必要だと思った。</p>
石橋委員長	<p>縦割りといわれたが、政策分野で分けると画一的な施策しか打てない可能性があり、子育てであれば、人づくりや暮らしづくりなど、子どもから見たら人づくり、育てる側からすると暮らしづくりになるかもしれない。町全体としては環境づくりと、そういった意味でかなり政策分野を横断的に取り組まないといけないことが結構あり、それらを紐づけることによって窮屈にしてしまう可能性はある。従来の計画のあり方は上から固めていって細かくしていくのでどうしてもそうなりがちだったが、意見が出たように考えてみる必要があると思った。</p>
東委員	<p>前回計画の立て付けとの違いをみながら考えていたが、前回の政策分野は、自治・協働、教育・文化・子育て、産業、保健・医療・介護・福祉、生活環境、自然環境の6つであった。今回自然環境が安心して暮らせる環境づくりに入る形になり、並びが変わっている。担当課の関係で分野で分けざるを得ないところもあると感じつつ、様々な各課が共同して一緒に考えていくことも必要である。</p>

	<p>島根県の中でも中山間地域プロジェクトチームがあり、中山間地域に関わる地域振興、農林、産業、土木など各課が参加している。ただ、全部入りすぎるとそれはそれでうまくいかないこともある。奥出雲町と行っている取組みとして、よく一緒に動くことがあるところがグループになって動く仕組みを作っている。地域振興と社協と包括は一緒に動くことがあるので、重なるところはグループで動き、必要があったらそれ以外の課も呼ぶような形としている。</p> <p>大きくしすぎて分野横断にするとうまくいかないことも感じつつ、従来の縦割りで担当課ごとでは、そこに閉じこもってしまい、他が何しているかわからないような形になる。そうさせないためにも、定期的に課長会等されていると思うが、担当者間で共有しながらできる仕組みがあったら良いと思う。夏頃に行い予算要求にもつなげるなど、そうしたことは役場の方も把握していると思うので、それぞれがバラバラにならないようにこういった場を設けながら、分野横断的に動ける仕組みが必要だと思う。</p>
勝部委員	<p>実際の施策はどこを取ってもつながっていると思う。子育て支援で考えると、そこに付随してくる産業や外部から人を移住させるためにはそこに魅力がないと来られない。単なる子育て支援だけではなくて付随してくるものがあると思う。</p> <p>表現の仕方だと思うので、例えば円にしてそれぞれの円が重なっているところが共通する取り組みとするなどで表現していくと全てが縦割りでなく、関わりのある総合的な推進という見せ方だと思うので、その辺は工夫されたら良いと思う。子育て支援、産業、農業が関わるのであれば、重ねていくような表現をすると良いと思った。</p>
石橋委員長	<p>縦割りは、専門的になって良い部分もなくはないが、施策を型にはめてしまうのはどうかと思うところはある。</p>
芥川委員	<p>建設業の仕事上、様々な課に関わる機会があるが、職員もたくさん異動され、全く違う分野に異動されることもよく聞く。例えば、建設課からまちづくり推進課に異動した場合、前の課での知識を次でも活かしている方もいらっしゃる。確かに仕事上担当課でしないといけないこともあるが、役職がなくてもそういうスペシャリストみたいな方が多くおられるので、もっと PR した方が良いと思う。</p> <p>勝部委員も言われたように一つの分野で収まりきれない問題は住民の中に多くあると思う。飯南町ではできている部分もあり、言われるように縦割りだと思う部分もあるが、柔軟に対応できる飯南町役場であることを PR したら良いと思う。</p>
大嶋委員	<p>勝部委員が言われたように、どの分野もつながりがあるので、重なりを持って表すと素人でもよくわかると思った。</p> <p>人口減少が深刻な問題で、外から入って来られる方や住民には子育て支援や仕事紹介など支援があるが、高校生などこれから出て行く確率の高い方々に対しても支援があると良い。</p> <p>例えば農業を一例に挙げると海外で研修できるシステムを作り、そういうこと</p>

	<p>もできることを頭の中にインプットした上で町外に出る。町外に出ないとそういう働き方ができないのでなく、勉強して飯南町に戻っても広い世界とつながりながら仕事ができる。そうした高校生たちを支援するプログラムや計画があると子ども達の頭の中に意識され、町に戻って活躍でき、そこで学んできたことを通して町が活性化されていくと思った。</p>
石橋委員長	<p>5つの柱に紐付けしていけば、担当課対応的になるので、もっと横断的に取り組まないといけないという意見だが、表現の仕方だと思う。従来の表現の仕方は、今回示された資料のやり方だと思うが、勝部委員が言われたような表現の仕方など、様々なやり方があると思う。10年間の計画に町を上げて取り組んでいくことを示すためにも、表示の仕方を工夫された方が良いと思う。実際に5つの分野に分けてもその先は一つになるようなイメージの体系が表現できれば良いと思うのでその辺はご検討いただきたい。</p> <p>大嶋委員が言われた高校生が卒業して飯南町に残るか、外に出てそのまま帰ってこないのか、帰ってくるのか、そういったことに対してどういう取組ができるかということは担当課だけの問題ではないと思う。全町的に様々な取り組みの積み重ねであり、具体的にしていくためにも、大きいものからだんだん小さくなるようなやり方ではなく、将来像に向けて最後がとても大きくなるような表し方ができると良い。</p> <p>10年間の計画であり前期計画と後期計画で5年ずつ分けられると思うので、前期は組織も含めてやってみて、もしうまくいかなかったら次の5年間はやり方を変えるなど、思い切ってやっても良いと思う。</p>
三上委員	<p>子育て・教育環境について、PTAの関係者としてお尋ねしたい。</p> <p>教育環境基本方針検討委員会が組織され、教育環境の基本答申が教育長に渡され、これから先10年間どんな教育環境を整えていくか、山陰中央新報に掲載されていた。</p> <p>小学校は地域の発展のために存続させ中学校は統合していくような、まちづくりの根幹にかかる小学校や中学校の配置について検討されている中で、教育の10年間とまちづくりの10年間がリンクして実現していくような体制があれば良いと思う。令和5年は赤来中学校と志々小学校はコミュニティスクールで地域と連携する学校づくりを行う1年間となっており、令和6年から町の全校でコミュニティスクール化という動きがある。高校では令和3年からコミュニティスクールが実施されている。</p> <p>まちづくりの中で地域住民と教育分野との連携が謳われていないのでその辺がどうなるのか心配している。</p>
石橋委員長	<p>三上委員が言われた教育関係の計画について、学校の統合が目に見える部分として非常に大きいと思うが、そのあたりはこの計画と関連持たせるところがあるか。</p>
事務局	<p>今の時点では教育環境基本方針ということで方針が示され、答申書として受け取った状態。これから教育環境の基本計画の策定に入る状況である。合わせてこ</p>

	<p>ちらでは町の最上位の総合振興計画を議論しており、来年度は並行して検討していくような形だと思う。総合振興計画が最上位計画であり、その中に教育のあり方についても盛り込んでいく必要があるので、連携していくということでご理解いただきたい。</p>
今岡委員	<p>p.8の6番に、スマート農業技術の普及と書いてあるが、現状中山間地域においては電波が受信できず、トラクターも田植え機も無人で動くものはあるが、事故を起こす可能性があると聞いている。整備していただかないと、スマート農業に結びつかない。</p> <p>農業委員会で総務省からタブレットを10台いただいており、農地パトロール時に、紙ではなくタブレットを持って、田んぼを確認しているが、赤名、頓原、来島の町から外れると、タブレットが使えない。そういうことも将来的には整備してもらわないと、宝の持ち腐れとなるので、今後10年のうちに整備してほしい。</p> <p>資料の中に「持続可能」という文言が多くある。おそらく持続可能というのは、約10年前から出てきた言葉だと思うが、p.2の1行目と下から3行目で二度出ており、p.6、7にも出ている。そこまで持続可能という言葉を使う必要があるのかと思った。</p>
事務局	<p>「持続可能」が何度も出てくる件について、全体の文章の流れをもう一度整理し、必要なものは残し、必要ないものは削るという確認をしていく。</p>
石橋委員長	<p>トラクターについて、GPSでの自動運転で電波が拾えないということか。</p>
今岡委員	<p>そうである。平野部ではできるが、中山間地域では無人で行うものに関しては推奨できないと聞いた。また、自動とは言うが、苗の供給などは人がする必要があり、誰かがついていないといけない。3人が2人になる程度のものである。人の手がなくなると検討しないとけないが、高価なものでもある。</p>
石橋委員長	<p>GPSの電波の問題だとすれば、国際的な問題になる。</p> <p>私もドローンを何年か前から使っているが、中国製のドローンでは衛星からの電波を十何個も拾うが、日本のトラクターは3つ4つ程しか拾えない。また、山かげへ行くと拾えなくなるという問題がある。これは飯南町で解決できる問題ではなく、国で解決しないとけない問題だと思う。ドローンのGPSは17個ぐらい常時、長谷のような山あいでも拾える。その内日本の衛星は2つ3つ。</p> <p>現場で作業記録を残すのにタブレットが使えれば帰って日誌を書く必要がないのですごく楽だとは思いますが、現場で電波が通じないとよく聞くので、インフラを整備するとスマート農業ができ、これからの若者たちはそういうのがあると案外楽しく作業できるかもしれない。</p> <p>持続可能については再度精査していただきたい。</p>
林委員	<p>飯南町の総合振興計画は、町に住む大人が対象ということだが、学校教育でこういう話をする機会はあるのかとふと思った。何が問題かと言うと、前回も言ったが、今の中高生の8割が大人になったら飯南町を出ていきたいと言っている</p>

	<p>現状があり、今回策定をする内容をそういう子どもたちに届けてあげたいという思いがある。冊子を作って配り、読むのは大人だが、家に帰って自分の子どもに説明してあげれば良いが、恐らくしていないと思う。</p> <p>中学生には難しいかもしれないが、高校生が読みやすいようなものがあると良い。町から出て色々吸収してくることは良いことだと思っており、飯南町の取組みを知り、外に出ても将来的に戻ってくるように、飯南町が考えている将来を伝えられたら良い。</p> <p>施策体系の図等も伝わるような形でまとめ、子どもたちに聞かせてあげる場があれば良いと思った。</p>
石橋委員長	<p>計画ができた後は、大人だけが見るものではなく子どもたちや町外の関係する人など様々な方に PR できるようなダイジェスト版などを作成して多くの人に共有できる計画になれば良いと思う。</p>
吾郷委員	<p>多くの方に見ていただき、同じ方向を向いていくようにするには、中学生でもわかるような形式が良いと思った。福祉教育でも大人に説明をするものでも小学校 3 年生がわかるような表現のものが一番わかりやすいと言われているので、そういった意味でも、誰が見てもわかりやすく、覗いてみたい、これならできるかもしれないというようなワクワクするような計画にしていきたい。</p>
石橋委員長	<p>今年度は本会が最後で、来年度以降は施策の検討に入るスケジュールになる。本日色々ご意見をいただいたが、その辺も踏まえて基本構想について、基本理念、将来像、課題、考え方、政策分野、表現の仕方をもう少し工夫してほしいという意見が多かった。それも含め、基本構想についてこの会として概ね了承ということで意見をまとめたいがいかがか。</p>
(異議なし)	
石橋委員長	<p>こういった構想で進めていただきたい。特に政策分野の表現の仕方や具体的な施策の紐付け方については、また改めて検討いただきたい。具体的な検討を進める上で、基本構想を修正する部分も出てくるかもしれないが、その都度議論させていただきたい。</p>

5. 閉会

事務局	<p>次回からの基本計画の方に入っていくが、今日いただいた基本構想の部分の意見について反映したものを作り、次回以降でお示しする。次回の第 5 回策定委員会については、新年度、5 月頃の開催を予定しており、日程について候補日が確定したら調整させていただく。</p>
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------